

上組が2023年の運航を予定する電気推進船のイメージ（同社提供）



関電、EV船の開発・促進を手掛けるe5ラボ（東京）と、同年5月の運航開始を目指す。

## 未来を変える 脱炭素への挑戦

港湾物流の脱炭素化に向け、上組（神戸市中央区）は、環境負荷を低減する電気推進船（EV船）を1隻導入する。関西電力の子会社が2023年1月に稼働させる相生バイオマス発電所（相生市）の燃料を輸送する。上組のEV船運航は初めて。バイオマス燃料を輸送する貨物船の電化は世界初という。（横田良平）

23年、神戸港―相生 CO<sub>2</sub>年400ト削減

# 上組海運脱炭素へEV船

かみぐみ かいうんだつたんそ

バイオマス燃料輸送

旭タンカー（同）が所有し、全長71・89メートル、幅12メートル、総トン数499トン。エンジンも搭載するハイブリッド型で、小型発電機と大容量蓄電池を備え、出入港や積み荷・荷揚げは電気で作業する。同規模のディーゼル船に比べて、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）排出量を最大半減できるといふ。

神戸港―同発電所間では、年間最大400トのCO<sub>2</sub>排出削減を見込んでおり、中長期的なゼロカーボン化につなげる。騒音や振動も大幅に抑える。

①上組が、環境負荷を低減するために1隻導入するのはどんな船ですか。

( )

②その貨物船は何を輸送しますか。

③その船の大きさや装備についてまとめましょう。

④船舶の温室効果ガス排出量を2050年までに2008年比50%以上削減する目標を設定している国連の機関を何といいますか。

( )

⑤国が推進する「カーボンニュートラルレポート」について調べてみよう。